

財表理論・ステップアップセミナー

知っておきたい3つのポイント

みなさん、どうして理論が出来ないのか？その出来ない理由を分析していますか？

出来ない理由を分析しないで闇雲に勉強しても点数は思っていた程伸びないでしょう。

そこで今回はまず理論問題が出来ない理由を分析してみましょう。

出来ない理由はなんでしょう。主な理由としては以下の3つの理由があげられます。

理由1 勉強時間が足りない。

理由2 理論を覚えていない。暗記していない。

理由3 理論を理解していない。

じつはこのどれもが財表の理論が必要になります。

今、現在この3点のうち自分に足りないところを把握して今後の理論の学習に生かしていきましょう。

◆ どれくらい理論に勉強時間を割いてますか？

どんなに才能のある人も時間を割かなければ、出来るようにはなりません。

まず、この1週間の自分の勉強時間を把握してみましょう。

日 / 1 週間

H / 1 日

勉強時間は嘘をつきません。

やはり勉強時間が多い人のほうが理論は出来るようになります。

理論の勉強時間を作っていきましょう。

◆ 勉強時間の作り方

- (1) 理論についてはまとまった時間は必要ありません。10～15分といった隙間時間を利用しましょう。
- (2) 生活の中に理論の学習を組み込む

具体例

- ① 朝15分早く起床する。
- ② 通勤・通学時間の電車の中など
- ③ お昼休み、休み時間
- ④ お風呂
- ⑤ 寝る前の15分

<メ モ>

◆ 理論を覚えていますか？

基本理論である意義や名称は覚えていないと出来るようになりません。

チェック問題１：基本的な名称が解答できますか？

（問）次の文章の空欄に適切な用語を記入しなさい。

（企業会計原則に準拠した発生主義会計の枠組み）

1 収益・費用の認識

収益は〔 ① 〕の原則により認識され、期間実現収益が把握される。これに対して、費用はまず〔 ② 〕の原則により認識され、期間発生費用が把握された後、〔 ③ 〕の原則によって期間実現収益と対応する期間対応費用が抜き出される。

2 収益・費用の測定

収益・費用は〔 ④ 〕に基づいて測定される。

チェック問題２：簡単な文章が解答できますか？

（問）実現の事実の２要件について述べなさい。

--

--

チェック問題３：ポイントの文章を正確に解答できますか？

（問）繰延資産の意義について述べなさい。

◆ 基本理論を覚えた上で連動して覚えるとよい理論

（費用配分の原則の意義）

費用配分の原則とは、費用性資産の取得原価を各会計期間に費用として配分していることを指示する原則をいう。



(減価償却の意義)

減価償却とは、費用配分の原則に基づいて、有形固定資産の取得原価をその耐用
期間における各事業年度に費用として配分することである。
 ① ② ③

(ポイント) 費用配分の原則を覚え、減価償却の意義との相違点を意識して覚える。

- ① 費用性資産の取得原価 ⇨ 有形固定資産の取得原価
- ② 各会計期間 ⇨ 耐用期間における各事業年度

◆ 共通している理論

① 減価償却の目的

減価償却の最も重要な目的は、適正な費用配分を行うことによって、毎期の損益計算を正確ならしめることである。

② 繰延経理の根拠

将来の期間に影響する特定の費用は、適正な期間損益計算の見地から、効果の発現および収益との対応関係を重視して、繰延経理される。

③ 引当金の計上根拠

引当金を計上するのは、適正な期間損益計算を行うためであり、発生主義の原則をその計上根拠とする。

(ポイント) 各論点の目的(下線部)は同じ、そのうえで特徴的な論点(波線部)を押さえる。

◆ 理論を理解していますか？

① 解答の際に正しい会計用語を使うことができますか？

② 問題文の解答要求をしっかりと読みとれますか？

以上のことが出来ないと基本の理論問題でも出来るようになりません。

チェック問題 1： 会計用語を正しく理解できていますか？

（問） 次の文章の誤りを指摘しなさい。

現金主義会計とは、現金主義の原則に基づいて収益・費用を測定し、両者の差額として利益を計算する会計体系をいう。

（問） 次の文章の誤りを指摘しなさい。

固定資産を購入によって取得した場合には、取得原価に買入手数料、運送費、荷役費、据付費、試運転費等の付随費用を加えた額とする。

チェック問題 2： 問題の読み取りはできていますか？

（問） 「将来の期間に影響する特定の費用」について述べている文章はどちらですか？

① すでに代価の支払が完了しましたは支払義務が確定し、これに対応する役務の提供を受けたにもかかわらず、その効果が将来にわたって発現するものと期待される費用

② すでに代価の支払が完了しましたは支払義務が確定し、これに対応する役務の提供を受けたにもかかわらず、その効果が将来にわたって発現するものと期待される費用のうち、その効果が及ぶ数期間に合理的に配分するため、経過的に貸借対照表上資産として計上されたもの

覚えてないといけない基本理論（伝統的会計理論）

項 目	チェック欄			
	穴埋め		ポイント	
① 実現主義の原則				
② 発生主義の原則				
③ 費用収益対応の原則				
④ 収支額基準				
⑤ 原価主義の原則				
⑥ 費用配分の原則				
⑦ 継続記録法				
⑧ 先入先出法				
⑨ 減価償却の意義				
⑩ 定額法				
⑪ 定率法				
⑫ 繰延資産の意義				
⑬ 引当金の意義				
⑭ 引当金の計上要件				

違いを知っておきたい会計用語（伝統的会計理論）

項 目	
① 認識 ⇔ 測定	
② 損益 ⇔ 収支	
③ 収支 ⇔ 収支額	
④ 収入 ⇔ 利益	
⑤ 財産性 ⇔ 資産性	